

## 阿蘇草原再生協議会 第 7 回草原環境学習小委員会議事概要

日時：平成 21 年 2 月 26 日（木）13：30～16：00

於：大阿蘇環境センター 未来館 RDF 会議室

出席者：団体・法人 7 名、個人 4 名、事務局 7 名、計 18 名

## 1．開会

あいさつ

出席者紹介

資料確認

## 2．議事

## 1) 野草地保全・再生事業実施計画案

自然再生推進法に基づく実施計画の作成についての説明〔九州地方環境事務所／岡野〕

「阿蘇草原再生ニュースレターNo.16」の説明〔九州地方環境事務所／岡野〕

資料 1 「野草地保全・再生事業実施計画案」の説明〔九州地方環境事務所／岡野〕

## 【協議】

委員長：対象は、現時点で協議会に参加されている 34 牧野組合で、かつ国立公園内に位置する牧野ということか。

事務局：現在協議会に入っておられない方にはこれを機会に入っていただきたいと考える。牧野組合の方々には、協議会に入っている一つのメリットとして、このような支援を受けられると捉えていただきたい。

委員：野焼き面積でも評価するとあるが、p4 に「野焼きだけでは生物多様性が低下する」という表記があり、誤解を招きかねない。野焼きによって生物多様性は向上するが利用という作業がないと高い数値は求められないというニュアンスを出した方が良い。牧野面積は減少していると明記されているが、野焼き再開などで地元としては逆に増えていると感じていると思う。具体的にどのあたりが減っているのかを提示すると分かりやすい。

事務局：面積については牧野調査の個表で確認することが出来る。

事務局：牧野面積の減少については、植林地が増えていることも一つ。

事務局：これまでの取り組みで成果が出ているということを PR はしたい。

委員：関係機関等の努力により増えている牧野もあるが、一方で植林地も増えている、としても良い。

事務局：日の尾では野焼き前から野草地としてカウントしているので野草地面積としては変わらない。

委員：p.2「ここだけにしか見られない希少な植物が・・・」とあるが、オオルリシジミ等は朝鮮半島から入ってきていて本州とは遺伝子構成が全く異なるものもいる。多様性を重んじるのであれば、草原性の”植物”だけではなく、昆虫なども含めた”動植物”とされたい。

事務局：植物を動植物に修正する。

委員：効果検証の中で、新たな草の利用が促進される、新しいコミュニティが形成されることも追記してはどうか。特に草の利用については採草する人が増えた、など。ボランティアに

入る仕組みとして、労力の軽減状況に含めても良い。

事務局：牧野の利用状況の検討に含んでおり、牧野現況調査の中で採草地の増減について調べるので、こちらで検証できると考える。他の調査ではボランティア加入の有無を調べている。再検討する。

委員：実施計画案が実施計画として採択されるまで、これからの手続きはどうなるのか。平成 21 年度からの事業なので時間がない。

事務局：今回の小委員会での意見を反映し、3 月 4 日の協議会で承認を受けたい。阿蘇で承認されれば、4 月の早いうちから認定手続きが始まる。

委員長：他の小委員会にも諮っているのか。

事務局：午前中に生物多様性小委員会、27 日に牧野管理省委員会、3 月 4 日に野草資源小委員会にかける予定。

委員：平成 20 年 3 月に体験野焼きをさせ、9 月に草小積み作成と草泊まり作成を実施している。ふれ合い体験を通して草原の価値を子ども達に伝えて一区切りと思っていたが、この 3 月にも体験をさせる。活動計画の期間としては 1 月～12 月か、4 月～3 月なのか。

事務局：今の流れでは、3 月の協議会で 4 月以降の計画を出していただき承認を受けることになっている。3 月に間に合わない場合は 8 月にも出して頂いている。できれば 3 月に 4 月以降の事業を挙げていただくと進めやすい。事業が続くのであれば複数年計画で出していたても良い。

委員：毎年取り組みの対象者も変わり、内容もバージョンアップする予定もある。

委員：実施計画を出すときに、年度で区切ることに決めた記憶がある。

事務局：複数年の計画の場合、活動結果を毎年出していただいても良いが、表彰の対象となるのは、計画の最終年度のみとしていた。

委員：学習小委員会の場合は、対象が変わるので単年度で出した方が良いか。

委員長：博物館でも毎年の取り組みとなるが、年度を追う毎に内容も変わっていくので年度ごとで出していけば確実ではないか。

事務局：複数年であれば、その後活動計画が出てこなくなると全体として沈んでいるように感じられるので単年度で出していただければ盛り上がるかと思う。

委員：平成 20 年度の活動計画は出していないので、結果報告だけでも承認いただけるのか。

事務局：報告時に、計画で出した内容以外にも追加で行ったことを報告していただき、後追い承認としてはどうか。

委員長：活動計画は出されていないので、結果報告をもとに、小委員会として遡って承認することとする。

委員：p.21 野焼き再開の面積目標として 2 割とは根拠があるのか。例えば A 牧野に 100ha の非利用地があれば、そのうち 20ha を支援するということが。予定面積も申請があったのではなく、目標ということか。

委員：各牧野ではなく、総合的に考えて 2 割ということではないか。

事務局：結果的に全体で約 2 割はしたいという思いがある。

委員：図表には根拠のあるデータを掲載すべきである。

委員：例えば、平成 20 年度には何割程度野焼き再開されたのか。

事務局：完全に野焼きされている所とされていない所などあり、数値化は難しい。

事務局：20年度の日の尾牧野は60ha野焼きを実施した。

委員：備考欄としてコメント・総面積を書きおくと分かりやすいのではないか。

委員長：今ご指摘のあった箇所は修正いただくとして、この実施計画案について承認とし、3月の協議会にあげていただくこととする。

## 2)阿蘇草原再生に向けた「活動計画案」

### 実施計画案の協議

No.4 「春の牧野まつり」の開催 / 下の道採草組合 - 報告者代理：事務局/宿利

#### 【協議】

委員：元々地元の方がやっていたものを一般の方にも入っていただくものか。

事務局：地域興しをしたいということと、自分たち牧野組合員だけでなく周りの方々と協力してやっていきたいとのことで計画された。補助金を利用して開催されている。

委員：交流会の具体的な内容は考えられているのか。小委員会に応援して欲しい、講師派遣、題材の提供等の要望はないか。

委員：マゼノはデザインセンターがやっているカルデラツーリズムのコースにもなっている。以前マゼノではトラブルがあったと聞いている。一度参加した方が道を覚えて、再び無断で入っていたようだ。

委員：エコトレッキングを行うときは自然案内人を付けて牧野組合に連絡をした上で入るようにしている。現在はエコツーリズム協会を立ち上げているので、ガイドラインを作成しており、その中でその対応も考えたい。

委員：ツーリズムでやっていた内容に、地元を引き込むという目的があるのではないか。

No.7 阿蘇の草原を守るために「野草紙を作ろう」プロジェクト/九州バイオマスフォーラム

- 報告者代理：事務局/宿利

#### 【協議】

委員：ロゴマークの表彰に野草紙の賞状を用いてはどうか。

事務局：KBFに一度確認する。

No.8 ぼくたちわたしたち、阿蘇地区子どもパークレンジャーだ！/阿蘇自然環境事務所

- 報告者：阿蘇自然環境事務所/永原

#### 【協議】

(特になし)

No.9 出前講座：阿蘇の草原を未来へつなごう/阿蘇自然環境事務所

- 報告者：阿蘇自然環境事務所/永原

#### 【協議】

(特になし)

#### 【承認】

委員長：4件については全て承認ということでよいか。

(拍手で承認)

### 3) 草原キッズ・プロジェクト

「草原キッズ・プロジェクト」資料の説明〔事務局/木下〕

No.10 阿蘇の草原キッズ・プロジェクト：～阿蘇の草原環境学習を通して将来の担い手を育てよう～ / 草原観光利用小委員会 - 報告者：委員長、事務局/永原

No.11 「阿蘇の草原キッズ」～日本一の草原博士になろう!～  
/ 草原観光利用小委員会 - 報告者：国立阿蘇青少年交流の家/紫垣

#### 【協議】

委員長：ワーキンググループで協議した結果、ロードマップ案から少しずつ発展してきているところで、現段階で確定しているわけではない。環境学習をいかに有効的にやっていくか小委員会で考えていくため、最終目標は子ども達の理解を深め、草原の担い手を確保していくことだが、当面の目標としては阿蘇市郡内の小学校で、草原環境学習を取り組んでもらえるような仕組みを作っていきたい。草原環境学習小委員会として5年計画の事業と単年度事業として2つの活動計画を提出し、進めていきたいと考えている。

委員：大人には「自然体験指導者」とされているが、対象である小学生と大人は別々のプログラムとなるのか。大人とは保護者という意味かと思ったが、一般の方という意味か。

委員：内容によって、別々の時もあれば一緒の時もあっても良い。体験型の場合是一緒に、指導法について考えるのは大人だけとしても良いと考えている。保護者の理解を得るために保護者に参加してもらうことも、今後所内で考えたい。

委員長：保護者と子どもと一緒に参加してもらうという考え方もある。

委員：自然体験指導者とは具体的にどんな方々になるのか。

委員：県のキャンプ協会、ネイチャーゲーム関係など、直に子ども達に接しながら自然体験を伝える立場の方。それなりのノウハウを持っておられるので、プログラムの中で積極的に関わって頂くことも可能と思うので依頼をかけながら参加いただきたい。

委員：文科省の制度がかわったので、学校への呼びかけを早くした方が良い。各学校で今年度から考えていかねばならない状況で、体験型も求められている。子ども達にどういう取り組みをさせられるかを示すと、先生方や取り組む学校も増えるのではないかと。長崎や佐賀などからは来られることはあるが、地元の方が学ぶ機会があると良い。

委員：5カ年計画なので、先生方を含めた大人の方々の支援体制を確立する必要があり、ルールを敷きたいという思いもある。また、大人だけのコマの中でカリキュラムやプログラムに関するディスカッションをする場としても活用できないかと考える。いろんな立場の方から意見を聞くと、優れたものができるのではないかとと思う。

委員：早めに学校長にも説明に行くべきである。坂梨の校長が取り組みに関して発表されている。上からの指令はあるので、貴重な材料があるという情報を早く流すことが大事。

委員長：実施期日について6月～7月に行うことも検討したが、時間的に厳しいため秋頃に設定した。

委員：情報を早く出さないと学校が対応できない。どんな取り組みをしようか考える前に情報を

提供することが優先である。始めだしてから情報を流すのでは遅い。

委員:学校の多くは2月~3月に次年度の行事予定を組むので、取り組んでくれそうな所をターゲットとして声かけしていきたい。

委員:まずはお知らせして、詳しくは近づいてから通達しても良い。

委員:当施設の取り組みでは、毎年事前案内を出すのが遅れがちである。

委員:場合によっては小委員会名で事前案内を出せばよいのではないか。

委員長:協議会で承認を得た段階で情報を流すよう取り組みたい。

委員:5ヶ年計画と単年度計画との関連性がわかりにくいので、No.11の概要かその他の欄に、No.10キッズ a)に該当するという文言を入れてはどうか。

委員:草原博士をどうにかしようという話であったが、博士は消えてしまうということか。また博士に結びつけるのか。

委員長:それについてもご意見いただきたい。今回は草原について学習してもらうことを目標にして取り組んでいる。これから、草原博士というステータスシンボルを一つのものとして、目標をあげていくという方法もある。環境省としての考えはいかがか。

事務局:草原博士というネーミングは良いので、当初は博士を広げることで考えていたが、小委員会・ワーキンググループの中で頂いたのは博士というのはレベルが高いという意見。幅広く知ってもらうという目的であれば、博士よりもキッズというネーミングにして、キッズの中からショートスクールに参加すると博士になるというステップがあっても良い。

委員:通常、義務教育を経て高校、大学、大学院へ進み博士を取得する。まずは義務教育でキッズとなり、別に博士を養成するというイメージか。

委員:名付け方次第。あなたもなれる!とあれば自分でもなれると意欲的になるのではないか。単に博士というと敬遠されるが、誰でもなれるとするとアプローチしやすいのではないか。最初からハードルを高くするのではなく、取り組みやすくすることが大事。

委員:このプロジェクトは、まさに小委員会の存在意義であり、アクションプランと位置づけられるが、実現は難しいだろう。学校での取り組みは、理科だったり道徳だったりそれぞれ関わる切り口が異なる。どんな授業でも、学校でまずやらなければいけない項目があり、草原だけではない。総合学習では生徒にテーマを選ばせ、テーマが草原となったときに、こちら側へ依頼がある。事前に総合学習で支援するというチラシを配布しておき、学校側の要望に合わせて出向き、報告書の作成もお手伝いするというのが現実的。提示されているロードマップはこちら側の理想なので、現実的には、これに先生方・学校側の理想や要望も組み合わせた2本立てで進める方がよいのではないか。学校側としては総合学習に呼べば来てもらえる、気軽にお願ひできるような人間関係を築いてからプログラムを提供していく方が取り組みやすいのではないか。

委員:文科省の理想でもあろう。文科省が今年、小学5年生を対象とした長期滞在型の体験学習を授業として読み替えるという動きを進めている。学校側に反応がなく、現場としてはそんな時間はないというのが実態。これから、教員の免許更新制度が今年からあり、毎年対象者が出てくるので、更新は選択制なので草原学習のプログラムを受ければ更新できるという方法もある。子ども農山漁村プロジェクトという取り組みでは1週間の自然体験を行い、阿蘇市も受け入れ側として手を挙げていると思う。生活体験推進校として阿蘇で2校選ばれており、天草に体験に行ったりしており、予算も付いているので、連携していけば予算

面もクリアできるのではないかと。先生方も研修と兼ねることで、楽な方からスタートできるのではないかと。どこから動き出すかは別としてやる価値はあるのではないかと。

委員:学校の先生が何をやるか決めることもあるが、総合学習は自分でテーマを決めるので、その際に草原がテーマに挙げればよいが出てこなければ入り口にすら立てない。実際、南阿蘇のある中学校では、牛をテーマとして調べることになったが、日本人とチーズの歴史について調べたりしているのが現状。先生方も外から来られて知らないし、牛と言えば乳牛しか知らないレベル。どんな切り口で入ってこられても、対応できるような間口の広い草原環境学習小委員会のチラシを作り、総合学習でも遠足でも選択理科でも、呼んでもらえれば、希望のテーマに沿った講師を派遣し、お話しをします、というようなものを並行して行ってはどうか。

委員:2段構えでやることはこれまでの議論でも出てきた話である。今後文部省もカリキュラムを変更した場合に先生と一緒に考える素材として使いたいという考え。小委員会としては、これだけの人材を集めることができ、対応できるということのPRをもう一方でつくる必要がある。

委員:学校側としてはそういうものがあると頼みやすいと思う。柔軟に対応していただけたら、学校側には小回りのきくいい小委員会という認識が出来、そこから人間関係を構築できるかもしれない。

委員:5年計画は、参加校を2割以上増やし、同時に人間のネットワークをひろげていくようにしてはどうか。

事務局:活動計画 No.9でも示している環境省の出前講座でも学校に出向いて、草原環境学習を行っている。その中からモデル校も選び、その前後で何らかの学習をしていくような広げ方ができればと考える。環境省の出前講座だけでなく、小委員会としてもチラシを作成して呼びかける方が良い。

委員:ここにいるメンバーの専門は草原だけではないし、学校としても草原だけではなかなか要望がないので、火山などの他の様々な項目も提示した方が学校から入りやすい。

委員:水俣では小中学校から要請があると講師が出向いている。その役目をこの委員会で担うというイメージではないか。県から交通費が出ている。講義を踏まえて発表会などを開くときは学校から招待を受けることもある。

委員:出前講座もすべて環境省が行わなくて良い。この小委員会のメンバーで出向いても良い。

#### 【承認】

委員長:草原キッズ・プロジェクトは、修正点が出てくると思うが、ひとまずこの流れで活動計画を協議会に提案するというのでよいか。また今後のワーキンググループで詳細を練っていくこととする。

(拍手で承認)

#### 4) 全国草原サミット・シンポジウム

##### 第8回全国草原サミット・シンポジウムについての説明

(里山100選について)

- ・朝日新聞の日本の里山100選に応募された草原一覧が記載されている。100選のうち草原で選ばれたのは2カ所で阿蘇と隠岐。応募数としては結構あったが、長崎県では

草原に関わる里山に関して 17 箇所も応募したが、1 つも選ばれていない。全国における草原の位置づけの低さが伺える。

(全国草原サミット・シンポジウム)

- ・ 1995 年から開催しており、それぞれの地域で実行委員会を形成し、運営を請け負いながら開催している。市町村長にも集まっていただくサミットを開催し、並行してシンポジウムを開催する。
- ・ 今年は北広島町(旧芸北町)で、9月26日～28日の3日間開催する。開催地は島根県境にあり、牛馬の使用頭数が多く、炭焼きの伐採跡地が草原となっている場所である。
- ・ 最終日にはロードマップを作成し、共通認識として宣言予定。
- ・ 第3回実行委員会では、基調講演を豊岡市長にお願いする予定で、各地からの報告(次回開催地を含めて4件)、分科会(3つの分科会テーマに沿って討議予定)をすることが提案されている。
- ・ 分科会テーマの目玉に子どもサミットがある。北広島町では環境学習が盛んで、各小学校の総合学習で地元の環境について学んでいる。全国の草原学習に取り組んでいる団体に参加いただき、活動事例を披露し合ったり、討議したいと考えている。
- ・ サミットの情報提供を行うとともに、子どもサミットに参加できる学校があれば紹介頂きたい。
- ・ 野草紙プロジェクトの取り組みや出前講座なども紹介できればと考える。
- ・ 旅費については未定だが、予算がないと参加できないという話を主催者側にあげることとはできる。
- ・ 阿蘇の各市町村長にも参加していただきたい。

【協議】

委員長:ワーキンググループでも議論させていただいた。平成21年度のショートスクールに参加した学校がサミットの中で発表するという連携も考えられたが、開催時期等との調整が難しいため、切り離すこととしたい。ぜひとも阿蘇全体としては参加するべきだが、阿蘇地域の中で既に学習をしている学校に絞って勧誘してはどうかという意見も出ている。

委員:参加の方法としては、パネル展示でも良い。

委員長:パネル展示と発表の両方のケースが考えられる。

事務局:現在、草原学習に取り組んでいるのは4校ほどある。旅費のことがネックになると思うが、パネルであれば、これまでの発表会で使用した模造紙やミュージカル(発表)の様子を撮影したDVD等があるので提供できるのではないか。

委員:参加は無理でもまずは知らせていただければ。参加していただいた所には報告書やビデオをお返しすることが可能。このサミットでは旅費の工面がネックとなり、厳しいとは感じているが、既に1校～2校は手を挙げている。

委員:草原甲子園などあっても良い。百人一首でも甲子園としてある。

委員長:まずは出前講座を行っている4校に話をしてみてもどうか。

5) その他

資料3-3 草原キッズプロジェクト 草原学習に関する実態調査

事務局:阿蘇郡市の小学校でどんな草原学習を行っているか把握するため、ヒアリングを行いたい

と考えている。皆さんと一緒に役割分担を決めて進めたい。

事務局:アンケートは3月中にでも教育事務所を通して発送し、4月以降に回収がてら学校周りをしてヒアリングができればと考える。

委員:アンケートの内容を詰める必要がある。

委員:学校側も忙しい時期であるが、今年データを集めるのであれば年度末までにやるしかない。

事務局:時間もないので、この後、時間がある方に残っていただいて、見ていただけないか。

(閉会后、時間のある方に見ていただくこととした)

今後の予定

<協議会>

- ・ 第8回協議会は、3月4日(水)13:00~未来館で開催。
- ・ 協議会では、本日審議いただいた活動計画については委員長より報告いただく。
- ・ 他に、野草地保全再生事業実施計画の報告、ロゴマークの審査、新規小委員会の立ち上げ、草原再生募金についてワークショップという形で話し合う予定。

3.閉会

- 以上 -